

平成30年度 社会福祉法人気仙沼市社会福祉協議会事業報告

1. 報告

少子高齢化による人口減少社会の到来に伴い、家族構成や地域社会が変化して社会的孤立や排除、引きこもりの問題等地域社会を取り巻く環境は大きく変化しており、さらには、経済・雇用環境の厳しさからの貧困・格差等の課題が顕在化する等、地域における福祉ニーズが多様化・複雑化・深刻化するなか、社会福祉協議会の果たす役割もさらに大きくなっています。

昨年の社会福祉法の改正に伴い社会福祉法人としてのガバナンスの強化、事業運営の透明性の確保、財務規律の強化を図り、地域の課題、ニーズを踏まえて公益的な取組を推進することで、地域福祉の中心的な担い手としての役割を果たすことが求められました。

このような中、本年度で5年目を迎えた「第2期気仙沼市社会福祉協議会地域福祉活動計画」に基づき、本計画の基本目標の周知と活動計画に掲げた目標の実現のため、より具体的な活動の推進とともに、気仙沼市と協働の下、地域懇談会を通し住民の生活課題を把握し、意見反映させながら、「第3期気仙沼市社会福祉協議会地域福祉活動計画」を策定しました。

地域福祉の推進を主体的に行う本会としては、地域での活動を担う人材育成や人材確保が重要な課題として挙げられていることから、生活支援コーディネーター研修等を通じて、情報の共有や意見交換の場づくりを進め、地域におけるリーダー役を担う人材の育成と幅広い年代の方がボランティア等として関われるよう取り組みを進めるとともに、地域課題の解決に向け自らが取り組むための包括ケアシステムを構築し、誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしができる地域づくりのため、行政や地区社協、関係団体等との連携を進めました。

介護保険事業・障害者支援事業については、インフォーマルなサービスとの連携を視野に、法令を遵守し、利用者個々の尊厳を基本にした良質で決め細やかなサービスの提供に努め、利用者やその家族との信頼関係を築き、事業経営に努めました。

指定管理事業については、責任と透明性のある施設管理・運営に努め、利用者の利便性の向上に努めました。

以下、平成30年度の事業について、報告します。

〈重点目標〉

1 福祉教育の推進・ボランティア活動の充実

福祉に関する教育・啓発に積極的に取り組み、住民一人ひとりが地域福祉を身近に感じ、地域の課題を自らの問題として受け止め、地域活動・ボランティア活動に繋がるよう機会を捉えて社協職員を派遣し意識啓発を行うとともに、市内の福祉施設の事業への高校生ボランティアの参加を得る等、福祉の意識づくりに取り組みました。

2 小地域福祉ネットワークの発展強化

小地域福祉ネットワークの活動の普及・啓発のため地区社協をはじめとする地域関係団体と連携して充実・強化に努めるとともに、生活支援体制整備事業を通じ、地域でのリーダーとなる人材育成と小地域福祉活動の住民向けパンフレットの配布や社協だよりでの周知など、啓発活動に重点を置き取り組みました。

3 地域コミュニティの再構築

応急仮設住宅入居者等サポートセンター、ボランティアセンター、西地区高齢者相談室等において、定期的な個別訪問による安否確認を行い、孤立死や引きこもりの防止、災害時における円滑な助け合いに繋げるため、近所づきあいの促進、地域での顔の見える繋がりでの再構築を進めました。また、災害公営住宅の住民と既存自治会の住民との相互交流を通じ、自治会設立に向けた支援を行いました。

4 地域包括ケアシステムの構築

市と協働して地域包括ケアシステムの構築を目指し、医療・介護の他職種、さらには地域の関係団体等と連携しながら、在宅医療介護フォーラム「高齢者を支える医療・介護を学ぶ集い」や認知症懇談会等を開催し、認知症になっても住み慣れた地域で生きがいを持って暮らせるまちづくりに努めました。

5 専門機関の相談窓口の充実

既存の制度では対応が難しい制度の狭間にある生活上の課題を抱えた方々の生活安定のため宮城県サポートセンター支援事務所の協力の下、無料で気軽に法律相談に対応できる体制整備を図りました。

6 介護保険事業・障害福祉事業サービス提供の充実・強化

介護保険事業・障害福祉事業の質の高いサービスの提供努めました。また、定期的な研修受講により、職員のスキルアップを図るとともに、各事業所間での連絡調整を密にして、良質なサービスの提供体制の強化と業務の効率化を図りましたが、新規利用の確保、拡大には繋がりませんでした。

7 組織体制の充実と財政基盤の確立

事故防止対策委員会や情報共有会議等を通じ、法令遵守の下、自己研鑽に努めながら課題解決のため地域の総合力を引き出すとともに、社協職員の意識改革を図り、社協職員自らが提案し、行動する開かれた市民に親しまれる社協の組織体制に努めました。財政基盤の確立については、介護保険事業や障害者支援事業での新規利用の確保、拡大には繋がらず、また、人手不足等もあり増収は見込めま

ませんでした。

1. 法人運営事業

事業名	内 容
理事会の開催	【概要】地域福祉の担い手としてふさわしい事業を進めるため、理事会、評議員会を中心として事業の推進を図りました。 ①平成 30 年 6 月 13 日（水）午後 1 時 30 分 出席者 理事 12 人 監事 2 人 1 企画経営委員会委員の選任同意について【同意】 2 嘱託職員等就業規則の一部を改正する規程制定について【同意】 3 指定障害児通所支援事業運営規程の一部を改正する規程制定について【同意】 4 ヘルパーステーションもとよし指定居宅介護事業運営規程の一部を改正する規程制定について【同意】 5 平成 29 年度事業報告及び決算について【同意】 6 社会福祉充実残額の報告について【同意】 7 平成 30 年度資金収支補正予算（案）について【同意】 8 定時評議員会の招集について【同意】 追加議案 9 評議員会に提案する「補欠理事候補者」の選任同意について【同意】 10 評議員選任・解任委員会に提案する「補欠評議員候補者」の選任同意について【同意】 ②平成 30 年 9 月 19 日（水）午後 1 時 30 分 出席者 理事 13 人 監事 1 人 1 評議員会に提案する「補欠理事候補者」の選任同意について【同意】 2 評議員選任・解任委員会に提案する「補欠評議員候補者」の選任同意について【同意】 3 企画経営委員会委員及び地域福祉推進委員会委員の選任同意について【同意】 4 気仙沼市北部地域包括支援センター事業運営規程の一部を改正する規程制定について【同意】 5 気仙沼市南部地域包括支援センター事業運営規程の一部を改正する規程制定について【同意】 6 経理規程の一部を改正する規程制定について【同意】 7 職員就業規則の一部を改正する規程制定について【同意】 8 嘱託職員等就業規則の一部を改正する規程制定について【同意】 9 指定障害児通所支援事業運営規程の一部を改正する規程制定について【同意】 10 ヘルパーステーションもとよし指定居宅介護事業運営規程の一部を改正する規程制定について【同意】

事業人	内 容
	11 気仙沼市みのりの園指定生活介護事業運営規程の一部を改正する規程制定について 12 評議員会の招集について【同意】
	③平成 31 年 1 月 21 日（月）午前 10 時 出席者 理事 15 人 監事 2 人 1 嘱託職員等就業規則の一部を改正する規程制定について【同意】 2 気仙沼・南三陸地域福祉サポートセンター日常的金銭管理業務に係る通帳等の保管取扱要綱の一部を改正する規程制定について【同意】 3 指定特定相談支援事業及び指定障害児相談支援事業所運営規程の一部を改正する規程制定について【同意】 4 平成 30 年度第 2 次資金収支補正予算（案）について【同意】 5 評議員会の招集について【同意】
	④平成 31 年 3 月 19 日（火）午後 1 時 30 分 出席者 理事 13 人 監事 2 人 1 職員就業規則の一部を改正する規程制定について【同意】 2 嘱託職員等就業規則の一部を改正する規程制定について【同意】 3 気仙沼市松峰園指定就労移行支援・指定就労継続支援 B 型事業運営規程の一部を改正する規程制定について【同意】 4 指定特定相談支援事業及び指定障害児相談支援事業所運営規程の一部を改正する規程制定について【同意】 5 指定障害児通所支援事業運営規程の一部を改正する規程制定について【同意】 6 訪問入浴サービスもとよし指定訪問入浴介護（指定介護予防訪問入浴介護）事業運営規程の一部を改正する規程制定について【同意】 7 経理規程の一部を改正する規程制定について【同意】 8 本所への事業所移設に伴う関係規程の整理に関する規程制定について【同意】 9 平成 30 年度第 3 次資金収支補正予算（案）について【同意】 10 平成 31 年度事業計画（案）について【同意】 11 平成 31 年度資金収支予算（案）について【同意】 12 評議員会の招集について【同意】 【成果】補欠理事及び評議員の選任、諸規程の一部改正等を行い、法人の健全経営や地域福祉を推進するための事業を確実かつ効果的に行うことができました。 また、「第 2 期市地域福祉計画・市社協地域福祉活動計画」に基づく事業を推進するとともに、「市地域福祉計画・市社協地域福祉活動計画推進委員会」及び「市社協地域福祉活動計画推進連絡会議」を開催し、地域における具体的、実践的な取り組みへの意見を基に、理事会及び評議員会と一体での事業を確実かつ効果的に進めることができました。 【決算 162,000 円】

評議員会の開催	【概要】地域福祉の担い手としてふさわしい事業を進めるため、理事会、評議員会を中心として事業の推進を図りました。 ①平成 30 年 6 月 27 日（水）午後 1 時 30 分 出席者 評議員 22 人 理事 3 人 監事 1 人 1 補欠理事の選任について【承認】 2 事業報告及び決算について【承認】 3 社会福祉充実残額の報告について【承認】 ②平成 30 年 9 月 28 日（金）午後 1 時 30 分 出席者 評議員 19 人 理事 4 人 監事 1 人 1 補欠理事の選任について【承認】 ③平成 31 年 1 月 30 日（水）午後 1 時 30 分 出席者 評議員 21 人 理事 3 人 監事 2 人 1 平成 30 年度第 2 次資金収支補正予算（案）について【承認】 ④平成 31 年 3 月 29 日（金）午後 1 時 30 分 出席者 評議員 23 人 理事 3 人 監事 1 人 1 平成 30 年度第 3 次資金集補正予算（案）について【承認】 2 平成 31 年度事業計画（案）について【承認】 3 平成 31 年度資金収支予算（案）について【承認】 【成果】補欠理事及び評議員の選任、諸規程の一部改正等を行い、法人の健全経営や地域福祉を推進するための事業を確実にかつ効果的に行うことができました。また、「第 2 期市地域福祉計画・市社協地域福祉活動計画」に基づく事業を推進するとともに、「市地域福祉計画・市社協地域福祉活動計画推進委員会」及び「小地域福祉活動推進会議」を開催し、小地域において、具体的、実践的な推進を図るため、小地域福祉活動推進会議等の意見を基に、理事会及び評議員会と一体での事業を確実にかつ効果的に進めることができました。 【決算 297,000 円】
監査会の開催	【概要】理事の業務執行状況及び法人の財産の状況について監査会を実施しました。 ①平成 30 年 5 月 31 日（木）、6 月 1 日（金） 1 平成 29 年度理事の業務執行状況及び事業並びに決算監査について ②平成 30 年 11 月 15 日（木）、16 日（金） 1 平成 30 年度上半期理事の業務執行状況及び事業並びに会計監査について 【成果】理事の業務執行の状況及び法人の財産等の状況について様々意見をいただき、法人経営や事業の推進に活かすことができました。 【決算 143,000 円】
評議員選任・解任委員会の開催	【概要】社会福祉法の改正により定款第 7 条に規定された評議員の選任・解任委員会における評議員の選任手続きを行いました。 ①平成 30 年 6 月 21 日（木）午後 1 時 30 分 出席者 評議員選任・解任委員 5 人（現員数 5 人）

	1 補欠評議員候補者の選任について 次のとおり選任 1号評議員 2人 ②平成30年9月20日(木)午後1時30分 出席者 評議員選任・解任委員5人(現員数5人) 1 補欠評議員候補者の選任について 次のとおり選任 1号評議員 6人 3号評議員 1人 【決算27,000円】
--	--

【1】会員数〈会費〉

一般会費

16,512世帯 4,953,600円
〈29年度決算〉 15,754世帯 4,726,200円

賛助会費

2,527世帯 2,578,000円
〈29年度決算〉 2,503世帯 2,562,000円

特別賛助会費

44法人・9個人 485,000円
〈29年度決算〉 42法人・9個人 465,000円

団体会費

13団体 39,000円
〈29年度決算〉 13団体 39,000円

【2】役員・評議員

理事 16人 平成31年3月31日現在

監事 3人 平成31年3月31日現在

任期：平成29年6月28日から平成30年度に関する定時評議員会終結の時まで

定数：13人以上16人以内

評議員 31人 平成31年3月31日現在

任期：平成29年4月1日から平成32年度に関する定時評議員会終結の時まで

定数：28人以上33人以内

【3】評議員選任・解任委員会

委員 5人 平成31年3月31日現在

任期：平成32年度に関する定時評議員会終結の時まで

定数：5人

平成30年度 会費納入及び助成金交付状況

平成31年3月31日現在 (単位: 円)

地区社協	納入			交付				合 計		
	一般会費	賛助会費	特別賛助会費	合 計	活 動 費 助 成					
					一般会費	賛助会費	特別賛助 会費		合 計	
西	600,000	355,000	70,000	1,025,000	200,000	106,500	14,000	320,500	0	320,500
	2,000	335	7							
上	403,800	517,000	85,000	1,005,800	134,600	155,100	17,000	306,700	179,400	506,100
	1,346	507	11							
中央	105,000	0	10,000	115,000	35,000	0	2,000	37,000	21,000	58,000
	350	0	2							
魚町	90,900	81,000	0	171,900	30,300	24,300	0	54,600	0	74,600
	303	77	0							
南町・柏崎	30,000	50,000	60,000	140,000	10,000	15,000	12,000	37,000	0	37,000
	100	50	6							
南	95,100	24,000	5,000	124,100	31,700	7,200	1,000	39,900	0	39,900
	317	23	1							
鹿折	190,200	178,000	10,000	378,200	63,400	53,400	2,000	118,800	0	118,800
	634	174	1							
松岩	644,700	553,000	60,000	1,257,700	214,900	165,900	12,000	392,800	33,300	459,200
	2,149	548	6							
新月	405,000	440,000	95,000	940,000	135,000	132,000	19,000	286,000	0	311,000
	1,350	437	10							
階上	323,400	0	0	323,400	107,800	0	0	107,800	62,400	190,200
	1,078	0	0							
大島	266,100	131,000	40,000	437,100	88,700	39,300	8,000	136,000	0	136,000
	887	129	4							
面瀬	360,000	235,000	40,000	635,000	120,000	70,500	8,000	198,500	27,300	245,800
	1,200	234	4							
唐桑	555,000	14,000	10,000	579,000	185,000	4,200	2,000	191,200	0	231,200
	1,850	13	1							
小泉	119,100	0	0	119,100	39,700	0	0	39,700	0	41,400
	397	0	0							
津谷	438,900	0	0	438,900	146,300	0	0	146,300	0	187,800
	1,463	0	0							
大谷	326,400	0	0	326,400	108,800	0	0	108,800	57,000	167,700
	1,088	0	0							
合計	4,953,600	2,578,000	485,000	8,016,600	1,651,200	773,400	97,000	2,521,600	380,400	3,125,200
	16,512	2,527	44法人9個人							

※下段は加入者数
※団体会員 13団体 39,000円

2. 地域福祉事業

事業名	内容
地区社協会長会議の開催	【概要】住民参加による地域福祉活動の推進を図るため、会長会議を開催し、情報交換等を行いました。 【実績】 ① 平成 30 年 7 月 3 日（火） 1 平成 30 年度会費のとりまとめ方について（お願い） 2 生活支援体制整備事業について 3 地区住民懇談会の開催について 4 地域支え合い活動推進モデル地区社協指定事業（案）について 5 地区社協活動（地域福祉活動）支援の取り組みについて 6 赤い羽根街頭募金の協力方について ② 平成 30 年 12 月 21 日（金） 1 平成 30 年度歳末たすけあい募金配分について 2 地区社会福祉協議会活動助成配分について 【成果】地区社協間の情報交換や情報提供を行い、相互の活動状況把握ができました。また、モデル地区社協指定事業の取組みの説明により理解をいただくとともに、地域福祉推進の方向性について意見が共有できました。会議の場だけではなく、地域支え合い推進員が地域に出向く中で、その地域に合わせた具体的な説明や提案等ができました。 【課題】震災後、地域の状況も変化したことから、地区社協の運営や事業の実施状況について、地区社協間での情報交換がより必要と考えます。 【今後の取組】 必要に応じて地区社協会長会議を開催しながら、幅広い意見の聴取と情報交換・共有などを行います。また、引き続き支え合い推進員はじめ職員が各種事業について丁寧な説明を心掛けます。 【決算】 327,784 円
地域福祉活動計画の推進と進行管理	【概要】地域福祉活動計画の具体的な取組みの実施状況を把握し、効果的な計画遂行のための実施方法等の見直しを行いながら、進行管理を行いました。また、第 2 期地域福祉活動計画の進行管理及び第 3 期（次期）計画の策定に取り組みました。 【実績】 地域福祉活動計画推進連絡会議（2 回） 地域福祉計画・地域福祉活動計画地域懇談会（11 会場） 地域福祉活動計画推進委員会（5 回） 地域福祉活動計画推進委員会委員長・正副部会長会議（2 回） 地域福祉活動計画推進委員会各部会開催（各 3 回） 第 3 期地域福祉活動計画（素案）に対する意見募集 期間：平成 31 年 2 月 5 日～2 月 25 日 場所：本所、唐桑・本吉支所等 7 ケ所、及び本会ホームページで公開

	【成果】地域福祉活動計画推進委員会においては、委員の改選時期であったことから、地域共生社会の実現に向け委員を 15 人から 20 人に増員し、公募委員も含め様々な分野からの参画をいただくことにより活発な意見交換ができました。 平成 30 年度は、次期（第 3 期）計画の策定年度でもあることから、地域福祉活動計画推進連絡会議、地域福祉活動計画推進委員会において、前年度の進捗状況の管理と合わせて、次期（第 3 期）計画の策定に向けた意見交換や住民意見の聴取、策定作業等をそれぞれの担当者間で行い、第 3 期計画を策定することができました。また、第 3 期計画は、市地域福祉計画と一体的に策定しました。 【課題】市民・地域・事業者等への周知方法の工夫が課題です。取組みの視覚化や市民の地域福祉に関する意識の醸成を、地域団体や関係機関・行政と一つになり多方面から働き掛ける必要があります。 【今後の取組】第 3 期計画を実効性のあるものとするために職員が地域に出向き、市民・地域・事業者等に対して、啓発と活動への参画促進に取り組めます。また、地域福祉計画と一体の計画でもあることから、推進に向け市との協働を強化します。 【決算】 783,405 円
小地域福祉活動の推進	【概要】誰もが地域の中で安心して生活ができるよう住民同士が協力し、見守り、助け合い、支え合う、小地域福祉活動を推進しました。また、生活支援体制整備事業と目的が合致することから、一体的に推進しました。 【実績】 ・地域支え合い活動推進モデル地区社協指定事業 【指定】 ・新月地区社会福祉協議会 ・松岩地区社会福祉協議会 ・地区住民懇談会（地区 11 社協） ・自立を支える地域福祉推進フォーラム 開催日：2 月 23 日（土） 場 所：ワンテン庁舎大ホール 参加人数： 166 人 ・小地域福祉活動補助金交付 9 地区社協 【成果】地域支え合い活動推進モデル地区社協の指定により、活動の充実・強化が図られつつあります。また、住民懇談会はもとより、地域支え合い推進員が地域に出向く中で、小地域福祉活動の大切さを直接住民に伝える機会が増えました。 地域福祉推進フォーラムは、生活困窮者自立支援フォーラムとタイアップし、全市対象に開催しました。例年とは違う視点の内容でもあり、「地域共生社会」を市民や関係者が一堂に介し考える機会となり、好評を得ることができました。

	【課題】小地域福祉活動を推進する上で、手引きとなる住民向けの冊子（パンフレット）の完成に至りませんでした。また、地域福祉推進フォーラムの開催が1回に留まりました。 【今後の取組】小地域福祉活動を推進のため、住民向け冊子（パンフレット）の作成を進めます。また、地域福祉を担う人材育成として、様々な場面を捉えて住民の理解促進と参画できる環境づくりに努めながら地域の福祉力を高めます。 【決算】792,101 円
生活相談所の運営	【概要】気仙沼地域では社協本所相談室で週4日（月、火、水、金）午前9時から午後3時まで、本吉地域では本吉支所で毎週月曜日の午前9時30分から午前11時30分まで生活相談所を開設し、生活上の心配事や悩みごとの相談事業を実施しました。 【実績】 ① 生活相談所 気仙沼地域：相談員4人 開設日数180日 相談件数51件 本吉地域：相談員6人 開設日数43日 相談件数12件 第2．3月曜日は生活困窮者自立相談支援事業所「ひありんく」と合同開設となりました。 ②各種会議・研修 情報共有会議：実施回数 10回 相談員連絡会議：気仙沼 1回 本吉 1回 【成果】相談の内容に応じて、傾聴や他機関の紹介、助言等を行い、相談窓口業務としての一定の役割を果たしました。日常生活における軽易な法律に関する事案については、電話やファクシミリで弁護士へ相談し、適切な助言により、即時解決する等幅広い対応ができました。 【課題】生活相談所の機能活性化とともに、身近な住民課題を拾い上げる役割を担える体制づくりに努める必要があります。 【今後の取組】住民の課題を把握するに当たり、お茶会等の交流事業や移動相談の実施など、アウトリーチの徹底に努めます。 【決算】1,688,173 円
広報・啓発	【概要】広報紙「気仙沼市社協だより」を6回発行（4、6、8、10、12、2月）しました。全戸（応急仮設住宅含む。）及び関係機関に配布し、また、「本吉支所だより」を6回発行（5、7、9、11、1、3月）し、本吉地域の全戸に配布しました。さらに、リニューアルしたホームページの運営を開始し、情報提供とともに住民の地域福祉活動への参加を促進する啓発活動に努めました。 【成果】地域に根付いた活動について重点的に紹介を行うことができたほか、社協の事業の周知ができました。

	【課題】広く地域情報を提供するため、地域行事等への積極的な取材が必要です。リニューアルしたホームページは、タイムリーな情報提供できるよう工夫が必要です。 【今後の取組】広報紙及びホームページを活用し、幅広い情報提供に努めます。 【決算】2,409,961 円
子育て支援交流事業 (こどもわくわく広場)	【概要】関係機関や地域ボランティア、民生委員児童委員等の協力を得て、子どもの遊び場の提供だけでなく、「地域で子どもを育てる」をテーマにミニシンポジウムを組み込むことで、子育て世代や地域がそれぞれの役割を考えるきっかけづくりと地域の一員として安心した生活が送れるような環境づくりを目的に開催しました。 【実績】日 時 10月14日(日) 午前10時～午後3時 会 場 市民福祉センター やすらぎ 参加者 約300人 【成果】外で遊ぶ機会が少なくなっている子どもたちが、元気にのびのびと外遊びや様々な体験を楽しんでいました。今回は室内にも遊び場を設け、ゆったりと過ごすスペースを用意したことで、昨年よりも乳幼児や障害児が多く来場しました。また、ミニシンポジウムを通し、地域の役割や子育て世代と地域の繋がりの大切さ等を知ってもらう良い機会となりました。 【課題】市内の他団体や他機関が子どもイベントに取り組んでいることから、子どもが楽しく遊ぶ機会の中に、子どもに対する地域の関わりについて考えてもらう視点をプラスした事業を継続して企画する必要があります。 【今後の取り組み】様々な機関と連携し、地域づくりに繋がるような事業展開を行います。 【決算】145,236 円
本吉地域福祉まつり	【概要】住民が楽しく主体的に集うことにより、福祉を身近に感じ、考えてもらう場とし、さらには、地域でのふれあいと支えあいが一層深まっていくことを願って開催しました。 【実績】日 時 7月1日(日) 午前10時30分～午後3時 会 場 本吉総合体育館、本吉公民館 参加者 約600人 【成果】昨年度に引き続き会場の関係で7月開催としましたが、好天に恵まれ、午後も時間イベントによる参加企画を多くしたことで盛会裏に終了することができました。今年度も一日の流れを来場者の動線と併せて検討し、時間単位で午後にも連続集客イベントを組み込みながら、開

	催時間帯のいつの時間帯に来場しても楽しめるよう意識して企画しました。3回にわたる実行委員会での様々な意見や提案により、昨年度以上に充実した内容になりました。本来の福祉まつりの目的を再確認し、来場者を楽しみながらも考える機会が持てるよう、今年度新たにゴミ分別ルールや民生委員児童委員等が企画運営に関わったことで、様々な切り口で地域福祉を考える機会を設定することができました。また、今年度初めて来場者アンケートを一つのコーナーとして実施し、大勢の協力を得ることができ、福祉まつりに対する来場者の受け止め等の意識傾向を把握することができました。 【課題】短期間での企画となり、お楽しみの賑わいはありませんでしたが、大人向けの啓発を含めた地域福祉を考えてもらえる機会としては十分ではなかったため、アンケート結果も踏まえ、福祉まつりの在り方を再確認して取り組みます。 【今後の取組】福祉教育の一環である福祉まつりは、住民が様々な形で福祉に触れる良い機会となるため、今後も参加と運営に関わることができるよう、福祉への理解と併せて人と人との繋ぐ機会であることを強く意識し、様々な機関や団体との協力体制を組みながら計画的に実施します。また、社協としての地域福祉活動を一年間実施した集大成としての福祉まつりであることを意識し、企画実施していきます。 【決算】249,449円
本吉地域ひまわり会交流事業	【概要】ひとり暮らしの高齢者の孤独感解消と相互交流の場を提供することを目的にボランティア団体等の協力を得て実施しました。 【実績】 7月31日（火）参加者22人 協力ボランティア1団体 12月 8日（土）参加者35人 協力本吉響高等学校 協力ボランティア1団体 1月27日（金）参加者31人 協力ボランティア1団体 3月12日（火）参加者28人 協力ボランティア1団体 【成果】3月に開催した集いでは、参加者と一緒に昼食を作る内容にしたことで、参加者自らも主体的に関わることができました。 【課題】企画を工夫しているものの参加率は対象者の1割程度と低い状況にあり、周知方法に加え事業内容の大幅な見直しをする必要があります。 【今後の取組】事業内容について、複数年かけて徐々にもてなすだけでなく、参加者も一緒に行える企画へ変更していき、対象者が参加してみたいと思える企画立案により参加率向上に努めます。 【決算】188,627円
善意銀行の運営	【概要】市民から多様な善意の預託を受け、その善意を地域生活支援及び住民参加による地域福祉の増進に資するよう効果的な活用に努めました。 【実績】 預託 金銭45件 3,571,079円

	物品 2件 (タオル104枚、) (清拭タオル100枚) 払い出し 金銭45件 3,571,079円 物品 4件 (タオル104枚、) (清拭タオル100枚) 【成果】寄付者の意向に沿い、地域の団体等への効果的な払い出しができました。 【課題】善意銀行への寄付者は地域別での偏りがあります。 【今後の取り組み】速やかな事務処理に努めるとともに、必要に応じ広報による周知を行います。 【決算】事業活動収入 3,572,091円 事業活動支出 3,573,873円 その他の活動収入 1,804円 その他の活動支出 0円 当期資金収支差額 22円 【決算】 3,573,873円
地区社協活動費助成事業	【概要】地区社協が実施する地域・在宅福祉に関わる事業活動に関する補助金を交付し、小地域の福祉活動を推進しました。 当該地区普通会費納入額の 1/3 相当額 〃 賛助会費納入額の 3/10 相当額 〃 特別賛助会費納入額の 2/10 相当額 【成果】補助金の交付により、地区事業の推進の支援ができました。 【課題】防災集団移転や災害公営住宅への入居も進み、今後は新居住者に対して社協への活動促進及び協力をいかに進めるかが課題です。 【今後の取組】地区社協と市社協が一体となり、事業の理解促進等を様々な場面を通して行い、震災により減少した会員の復活や新規会員を増やすことに努めます。 【決算】 2,521,600円
屋内ゲートボール場の運営	【概要】市民の福祉の向上と健康増進及びスポーツ振興を図ることを念頭に運営しました。気仙沼市ゲートボール協会に管理運営を委託しています。 【実績】開場日201日 利用者延べ1,786人 【成果】常設かつ全天候型のゲートボール競技場として、市民のスポーツ振興の一助となっています。また、隣接するテニスコート利用者の休憩場所として、クラブハウスを貸し出す等、施設の有効活用に努めました。クラブハウス屋根の経年劣化による腐食については、今年度修繕を行ないました。 【課題】全天候型施設として、雨天時等ゲートボール以外の屋内施設の活用に関して、競技場管理の視点からの活用可能条件等をゲートボール協会と協議を行ない、条件整備を図る必要があります。 【今後の取組】健康増進の一助になるよう、引き続き気仙沼市ゲートボール協会との連携協力を進めながら管理運営に努めます。

	【決算】1,073,098 円
気仙沼市市民福祉センター 管理運営業務	【概要】気仙沼市市民福祉センター条例及び基本協定書に基づき、社会福祉を目的とする市民の相互交流及び高齢者並びに障害者の自立の促進と健康の増進を図り、地域福祉の向上に努めました。 【実績】 利用回数 1, 0 9 7 回 利用者数 1 5, 7 7 1 人 【成果】利用申請者（団体）に対し、施設を効果的に利用して頂くことができました。 【課題】貸館業務のほか、防火訓練等の地域と一体となつての管理運営での業務への対応が必要となりました。 【今後の取組】地域に開かれた施設として、施設利用を通じ、市民福祉サービスの向上に努めます。 【決算】13,152,429 円

3. ボランティアセンターの運営

事 業 名	内 容
ボランティア相談・調整等 事業	【概要】ボランティアコーディネーターを配置し、ボランティアの相談・ニーズの受付・調整・派遣等ボランティアの育成・啓発を推進するとともに、相互理解と互助によるボランティア活動の機運の醸成に努めました。 【実績】ボランティア相談 1 1 件 調整 1 0 件 被災者支援関係 災害ボランティア相談・問合せ 3 件 生活支援ボランティア相談・問合せ 1 8 件 調整 3 8 件 【成果】ボランティア活動希望者の相談に応じ、ボランティアの育成・啓発の推進に努めました。 【課題】ボランティア活動者の育成のための講座の開催が必要です。 【今後の取組】ボランティアの育成・啓発に努め、活動者の増を目指します。 【決算】763,037 円
ボランティアスクール	高校生ボランティアスクール 【概要】おもちゃ図書館を通じて子育て中の家族と触れ合うことにより福祉に対する理解を深め、ボランティア意識の啓発を図ることを目的に開催しました。 【実績】開催日 1 0 月 1 3 日（土） 1 0 月 1 4 日（日） 実施場所 気仙沼市市民福祉センターやすらぎ 参加人数 ボランティア 1 4 人

	【成果】 こどもわくわく広場事業と合同でたばしね学園の協力の下、おもちゃ図書館を開催しました。児童とのふれあいを通して様々な発見や気づきを得、将来の進路を考える上での一助となりました。 【課題】 参加校が2校と少なかったため、参加しやすい開催時期の検討が必要です。また、小・中学生のボランティアスクールについては日程の調整がつかず、開催できませんでした。 【今後の取組】 開催時期のほか、他事業と連携し学生が福祉やボランティア活動等に触れ、学習する機会について検討していきます。また、児童生徒が興味を持つテーマ等を取り上げ、小・中学生のボランティアスクールについても開催します。 【決算】 266,607 円
ボランティア保険の加入	【概要】 ボランティアの方々が安心して活動できるよう、ボランティア保険の加入手続きを行いました。 【実績】 加入者 1, 281人（前年度1, 341人） うち、ボラ保険掛金一部助成を受けた方 742人 （前年度 733人） 事故報告件数 0件 【成果】 安心してボランティア活動ができる環境の整備に努めました。 【課題】 保険を利用するための事故報告はありませんでしたが、事故発生時に備え、保険の活用について引き続き周知する必要があります。 【今後の取組】 ボランティア保険の加入促進及び事故発生時の保険の活用についての周知に努めます。 【決算】 222,600 円
知的障がい者支援ボランティア養成講座	【概要】 知的に障がいのある方々を地域で見守るボランティアの育成を目的として全2日コースで開催しました 【実績】 1日目 開催日：12月1日（土） 場 所：本吉公民館視聴覚室 参加人数：9人 2日目（現場体験として協力団体等を選択式で開催） ① 協 力：本吉絆つながりたい 開催日：12月9日（日） 場 所：津谷松尾コミュニティセンター 参加人数：9人 ② 協 力：ふぁみりあ 開催日：12月25日（火） 場 所：鹿折公民館 参加人数：5人 【成果】 高校生をはじめ、地域の方々に知的に障がいのある方への理解を深める機会となり、地域と施設や団体を繋ぐ機会になりました。

	【課題】昨年度より参加者が減少し、住民への事業浸透率は低い状況にあります。今後地域で見守る体制の整備を図るため、周知方法等を検討する必要があります。 【今後の取組】周知方法を検討しながら、知的障がいの方を含むすべての方々が地域で見守ったり、見守られたりできる仕組みづくりの整備に向けて必要な取り組みを行います。
--	---

4. 福祉教育

事業名	内 容
福祉教育活動費補助金交付事業	【概要】気仙沼市内の小・中・高等学校に対し、継続した福祉教育・ボランティア学習への支援を行うため、一校につき年額 20,000 円を上限に補助金の交付を行いました。 【実績】 補助校数 : 小学校 5 校 (前年度 5 校) 中学校 1 校 (前年度 3 校) 高等学校 1 校 (前年度 2 校) 交付金額 : 124,106 円 (前年度 144,826 円) 【成果】市内の小・中・高等学校に周知をしたところ、7 校からの申込みがありました。申し込み内容としては、主に高齢者福祉と障害者福祉に狙いを絞ったものが多くありました。 【課題】補助金額の引き上げや補助金内容を分かりやすくまとめたチラシの作成のほか、事業内容の改善を行ないましたが、少子化による学校の統合等の影響もあり、利用校は昨年より 3 校の減となりました。 【今後の取組】複数回周知を行い利用校の増を図ります。 【決算】330,154 円
行事参加協力調整事業 (高校生ボランティアの活動調整)	【概要】市内の福祉施設等から高校生ボランティアの派遣を依頼された際に、市内の高等学校等の協力を得てボランティアを募りました。 【実績】気仙沼支援学校 運動会 15 人 3 校 (前年度 17 人 3 校) 松峰園 松峰祭 14 人 2 校 (前年度 12 人 3 校) 気仙沼支援学校 学校祭 12 人 3 校 (前年度 12 人 3 校) 【成果】高校生にボランティア活動の場を提供できました。 【課題】少子化や依頼先の学校行事との兼ね合い、既に他の団体からのボランティア依頼を受けている等の理由から、依頼を断られるケースが増えています。 【今後の取組】他事業と連携し、ボランティアについての理解を深めるよう広報啓発等に努め、活動者の増を図ります。

24時間テレビ街頭募金協力	【概要】24時間チャリティ募金活動を通して、幅広い年代層に対し、募金への理解を図りました。 【実績】開催日 8月26日 募金場所 イオン気仙沼店 スーパー片浜屋はまなす店 協力者 高校生ボランティア 52人 (市内 4高校) 【成果】市民の方々の募金へのご理解とご協力を頂き、福祉活動への啓発を図ることができました。 【課題】開催時期が気温の高い季節であり、熱中症が心配されます。ボランティア参加者への適切な休憩・水分補給の徹底を呼び掛けます。 【今後の取組】幅広い年代層に対し、募金への理解を図ります。
福祉教育・企業・団体への職員派遣事業	【概要】学校からの福祉教育体験授業への職員派遣の依頼に基づき、社協職員等を派遣しました。実施方法や派遣職員については、先方の要望に応じて協議の上で行いました。 【実績】依頼団体 : 小学校 延べ1回(1校) : 中学校 延べ2回(2校) 内容 : 高齢者体験、車いす体験、視覚障害体験、点字体験 対応 : 社協職員 【成果】車いすの援助及び自走体験が初めてという学生が多く、高齢者や障害への理解を深め、福祉意識の向上に繋がる機会を提供できました。 【課題】体験だけで終わることなく、体験から当事者との交流や実践に繋げること、講師や協力者の確保は引き続きの課題となっています。 【今後の取組】実施依頼時に学校側との企画検討の打合せを行なう等、丁寧な支援を心掛けます。また、市内の福祉団体、関係機関等と連携しながら取り組みます。 【決算】132,166円
敬老作文募集事業	【概要】敬老をテーマにした作文に取り組むことで児童が高齢者への理解を深め、敬老の心を培うことを目的に市内の小学校に作文募集を依頼し、元教員、児童福祉関係者等9人の審査により、最優秀6点、優秀18点を選びました。また、受賞作品については、社協だよりのほか、学校や企業の協力を得て、地元新聞への掲載やK-ネットにおいて受賞児童の作文朗読出演に加え、敬老作文集を作成し、関係者に配付しました。 【実績】応募学校数: 市内15校 応募総数(学校への提出作品): 194点 各学校からの選考作品数(審査対象作品): 66点 受賞作品総数: 24点 【成果】学校数、児童数が減少している中で、作品の応募総数が増加しました。また、作文に取り組むことで高齢者に対する理解の促進と思いやりやいたわりの心を培うことの一助となりました。 【課題】審査会において、昨年と同様に誤字脱字についての指摘があり

	ました。このことは、次年度の作文募集を行う際に、要綱に入れ込むとともに、募集文書の中で学校にお知らせします。 【今後の取組】子ども達の高齢者福祉に対する理解促進のため、事業を継続します。 【決算】263,321 円
--	--

5. 資金貸付等事業

事 業 名	内 容						
生活福祉資金貸付事業	【概要】資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより、経済的自立と生活意欲の助長促進並びに在宅福祉及び社会参加の促進を図り、安定した生活を送ることができるよう資金の貸付や相談支援を行いました。 【実績】 <table><tr><td>福祉資金</td><td>1 件</td><td>2 7 7, 0 0 0 円</td></tr><tr><td>教育支援資金</td><td>2 件</td><td>2, 1 6 0, 0 0 0 円</td></tr></table> 【総貸付件数】(平成 31 年 3 月末現在) 5 9 件 3 3, 2 3 7, 6 5 7 円 【成果】担当民生委員と連携し、必要な資金の貸付を行うことができました。また、貸付だけでなく世帯が抱える課題の解決に向け、自立相談支援機関や行政の担当者等とより一層連携した取り組みを行ないました。 【課題】単に貸付を行うだけでは解決できない複合的な課題を抱えている世帯が多く、個別に関わるケースが増加しています。自立相談支援機関等とより一層連携した支援が必要となっています。 【今後の取組】宮城県社会福祉協議会や担当民生委員、自立相談支援機関と連携しながら、生活の実態把握や自立支援に努めます。 【決算】6,880,886 円	福祉資金	1 件	2 7 7, 0 0 0 円	教育支援資金	2 件	2, 1 6 0, 0 0 0 円
福祉資金	1 件	2 7 7, 0 0 0 円					
教育支援資金	2 件	2, 1 6 0, 0 0 0 円					
生活福祉資金貸付金督促相談会	【概要】宮城県社会福祉協議会と連携した償還滞納者を対象に督促相談会を実施し、世帯の実態把握と償還への働き掛けを行いました。 【開催日】平成 3 0 年 9 月 2 0 日 (木) 対象者 2 人 平成 3 0 年 1 0 月 4 日 (木) 対象者 5 人 【成果】借受世帯の生活実態を把握することができ償還への働き掛けを行うことができました。 【課題】市外転出者や連絡不能な借受者への対応が課題となっています。 【今後の取組】宮城県社会福祉協議会と連携し、今後も定期的に相談会を実施し償還への働き掛けを行います。						
生活安定資金貸付事業	【概要】低所得世帯に対し、緊急かつ一時的に必要な生活資金の貸付を						

	行うことにより、その世帯の自立更生を援助し、生活の安定に資することを目的として小口の貸付を行いました。 【実績】貸付件数 5 件 2 5 0, 0 0 0 円 【総貸付件数】(平成 31 年 3 月末現在) 1 6 件 5 7 8, 0 0 0 円 【成果】一時的に資金貸付の必要が生じた世帯に対して迅速に対応し、世帯の生活安定を図ることができました。また、自立相談支援機関を利用している世帯に対しては、相談支援機関と連携しながら世帯の自立支援に努めることができました。 【課題】長期滞納者の対応が課題となっている 【今後の取組み】担当民生委員児童委員と連携し、生活実態の把握に努め償還への働き掛けを行ないます。 【決算】259,744 円
--	--

(震災対応事業)

事業名	内 容
生活復興支援資金貸付事業	【概要】東日本大震災により被災した低所得世帯に対して、当面の生活費や転居費用、住宅補修費等の必要な経費を貸付するものです。 【実績】 貸付件数 なし 【総貸付件数】(平成 31 年 3 月末現在) 4 4 件 2 6, 5 0 6, 6 7 8 円 (震災から 8 年が経過していることで、震災に起因したものかどうかの判断が難しく申込みに繋がるケースが少ない。) 【課題】償還期限内ではあるが、償還に遅れが生じている世帯の生活実態を把握し、適宜必要な支援に取り組む必要があります。 【今後の取組】民生委員児童委員と連携し世帯の生活状況を把握するとともに、自立相談支援事業所等関係機関と連携しながら世帯の自立に向け支援します。
特例緊急小口資金貸付事業	【概要】東日本大震災当時被災された世帯で、当座の生活費を必要とする世帯に対し、震災対応の特例措置として緊急小口資金の貸付を行いました。(貸付は平成 23 年 5 月をもって終了) すでに、償還期限が経過していることから、滞納となっている世帯に対し、電話や訪問等により生活状況の把握と償還への働き掛けを行いました。 【総貸付件数】(平成 31 年 3 月末現在) 2 2 7 件 2 3, 8 7 3, 2 9 0 円 【課題】県外転出者や長期滞納者の対応が課題となっています。 【今後の取組】宮城県社会福祉協議会と連携しながら、今後も転居先の調査を行うとともに、生活実態の把握に努め償還管理の強化に努めます。

6. 援護活動

事業名	内 容
災害見舞金等贈呈事業	【概要】住宅火災に対し、世帯状況により災害見舞金の贈呈を行いました。 【実績】4件（12月2件、2月2件） 【課題】市社会福祉事務所からの情報を基に、贈呈対応手続を行っていることから、発災から贈呈までの時間が必要となります。 【今後の取組】より迅速に見舞金の贈呈ができるよう検討を進めます。 【決算】135,000円
歳末たすけあい募金配分事業	【概要】いつまでも住み慣れた地域で暮らしていくために必要な各種支えあい活動が展開できるよう、地区社協をはじめとした地域活動等へ配分しました。 【実績】配分委員会：平成30年12月19日開催 収入額合計：7,658,288円 (内訳：募金4,758,288円、市補助金2,900,000円) 【成果】配分要綱に基づき、在宅長期寝たきり者と長期入院者への配分に加え、地区社会福祉協議会が実施する福祉活動への助成配分、障害福祉施設等への活動助成配分、新入学児童への安心・安全の支援への配分、子育て支援団体等への活動助成配分を行いました。 【課題】個別対象者への配分については、在宅長期寝たきり者と長期入院者への配分としました。民生委員児童委員の協力による世帯把握に努めました。生活困窮世帯等をすべて把握することが困難な状況でありました。しかしながら、引き続き対象世帯把握のための方策について研究する必要があります。 【今後の取組】民生委員児童委員や地区社協との連携を強化しながら、地域の状況把握に努め、地域のニーズと募金趣旨に沿えるような配分を検討します。 【決算】8,366,317円
交通・海難等遺児に対する就学支援費の支給事業	【概要】交通事故、海難事故、労働災害及び病死（不慮の事故を含む。）により扶養していた父母の一方又は双方が死亡した満18歳以下の高校在学までの者に対して、民生委員児童委員を通じ就学支援費を支給しました。 【実績】遺児家庭 28世帯 遺児数 43人 贈呈金額 367,000円 高校生 10,000円×22人 中学生 8,000円×14人 小学生 5,000円×7人 【成果】遺児とその家族との対面での支援を通じ、相談しやすい環境づくりができました。また、民生委員児童委員が欠員の地区については、他地区の民生委員児童委員より協力を得て対応しました。

	【課題】財源の確保が必要です。 【今後の取組】民生委員による対面での支援を行い、相談しやすい環境づくりに努めます。 【決算】367,324 円
--	--

7. 生活支援・障害福祉事業

事業名	内 容
日常生活自立支援事業 (福祉サービス利用援助事業) 気仙沼・南三陸地域福祉サポートセンター(まもりーぶ気仙沼・南三陸)	【概要】認知症、知的障害、精神障害等の何らかの理由で判断能力が不十分な方が、住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるよう、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭、書類管理等のサポートを定期的な訪問により見守ることができました。 個人の権利を擁護するとともに、意思決定を尊重しながら、日常生活の自立支援対策として事業を実施しました。 【実績】契約件数55人 (内訳：認知症23人、知的障害15人、精神障害11人、その他6人) 【成果】事業への問い合わせと相談件数は年々増えており、高齢者や障害のある方の生活を支える事業として定着しつつあります。支援計画に基づいたサポートを行いながら、定期的に訪問することで、地域での生活を支援することができました。また、自身での保管が難しい証書等については、市内の金融機関の貸金庫に預けることで、財産を保全することができました。 【課題】専門的な関係機関との調整が必要とされるケースが多いほか、親族が高齢や判断能力が不十分となり、親族のサポートが困難なケースが著しく増加しています。利用される本人の判断能力が低下したことで、成年後見制度に繋がるケースも増え、これまで以上の他機関との連携と協働が必要となっています。
フードバンク事業	【概要】みやぎ生協との協定により飲食物の提供を受け、緊急時の生活支援の一助として生活困窮者への食料支援を行いました。主に、本会における資金貸付相談者のほか、行政や自立相談支援機関から依頼があった困窮者へも食料支援を行いました。 【実績】14件 【成果】一時的に生活困窮となっている世帯に対して、食料を提供することで他の支援までの繋ぎとして食の確保をすることができました。 【課題】在庫の状況により、提供可能な食品と数に変動があります。 【今後の取組】引き続き在庫を調整し、緊急時の支援に備えます。

障害者との交流事業	【概要】 外出機会の少ない視覚障害者の方々の運動機能低下の抑止と気分転換を図ることを目的に、体を動かすレクリエーションや市民団体の協力を得て、マンドリン演奏会を実施しました。また、ヘルプカードの周知を行いました。 【実績】 開催日：3月24日（日） 場所：市民福祉センターやすらぎ 多目的ホール 参加人数：33人 視覚障害者：6人、ボランティア等：27人 協力団体：2団体 【成果】 今回は、音楽鑑賞をメインとしていましたが、交流会前半にボランティアがフォローしながら、全員参加型で軽く体を動かすレクリエーションを行ったことで、初めて視覚障害者と接する方もスムーズに交流することができ、相互理解の一助となりました。また、ボランティアや職員も十分におり、安心して事業の実施ができました。 【課題】 参加ボランティアから「外歩きをしたい」との声があったことから、内容の検討が必要です。また、視覚障害に限らず、障害者との交流事業の実施を検討する必要があります。 【今後の取組】 事業趣旨、実施内容の見直しを行いながら、関係機関と連携し、交流事業を継続します。 【決算】 107,565 円
手話講座 ～フォローアップ編～	【概要】 宮城県聴覚障害者情報センター（みみサボみやぎ）事業「みみサボサロン」の実施に合せて「手話講座 ～フォローアップ編～」を開催しました。 【実績】 開催日：平成30年6月30日（土） 場所：市役所ワンテン庁舎 参加人数：26人 （聴覚障害者5人、ボランティア等13人、スタッフ8人） 協力団体：1団体（宮城県聴覚障害者情報センター） 内容：ヘルプカード活用講座と交流 【成果】 市内で配布が始まった「ヘルプカード」について、どのようなもので、どのように活用できるのか、みんなで一緒に考える機会となり、市内の聴覚障害者と手話奉仕員や手話サークル会員、手話に関心のある方との繋がりづくりの一助となりました。 【課題】 手話を日常的に使うことのできる交流の機会や新しい表現方法などの習得できる継続的な研修機会の検討が必要です。 【今後の取組】 他機関が実施している各種研修の機会を捉えながら、効率的な事業展開に努めます。 【決算】 43,432 円
ガイドヘルパー派遣事業	【概要】 視覚障害者の社会参加を支援し、視覚障害者の社会生活範囲の拡大と福祉の増進を図ることを目的に、視覚障害者介添人の派遣を行い

	ました。また、フォローアップ講座を開催し、視覚障害者介添人の育成に努めました。 【実績】 活動延人数 50人 (前年度 44人) 依頼件数 43件 実人数4人・2団体 (前年度 35件) 【成果】個人利用では通院、団体利用では会議や行事等を中心に利用がありました。また、フォローアップ講座を行い、活動者の質の向上に努めました。 【課題】依頼が集中した際や仙台等の遠方への活動依頼の場合、依頼に対応できない場合があります。 【今後の取組】ガイドヘルパーの養成講座を行い、活動者の育成に努めます。 【決算】253,062円
録音サービス事業	【概要】地域のボランティアである「朗読奉仕あいの会」や「朗読奉仕会」、「本吉響高校生徒」の協力を得て、「広報けせんぬま」、「社協だより」等を朗読録音し、市内の視覚障害者の方へお届けしました。 【実績】 発行回数 気仙沼 24回 利用者数 20人 本吉 24回 利用人数 2人 【成果】視覚障害者の方へスムーズな情報提供ができました。 【課題】カセットテープからCDへの移行が難航しており、デジタル録音図書にとらわれない方法の検討が必要です。また、常に利用者が聞きやすいテープの作成を心掛けることが大切です。 【今後の取組】継続して情報の提供を行います。また、カセットテープからCDへの移行について検討します。
点訳サービス事業	【概要】市内のボランティアの協力を得て、依頼を受けた資料を点訳しました。 【実績】点訳依頼件数 1件 (前年度 1件) 【成果】点訳資料の作成により、視覚に障害のある方へ円滑な情報の提供を図ることができました。 【課題】点訳ボランティアが少なく、安定したサービス提供が難しい状況にあります。 【今後の取組】今後とも継続して情報提供を行うとともに、点訳ボランティアの育成に努めます。 【決算】21,449円
視覚障がい者ガイドヘルパーフォローアップ講座	【概要】外出時手引きをサポートするガイドボランティアについて学習し、一人でも多くの方が視覚障害を正しく理解して、気軽に声を掛け、支援できる環境づくりとボランティアの裾野を広げることを目的として開催しました。 【実績】 開催日 : 8月17日 (金) 場 所 : 中央公民館 参加人数: 12人

	【成果】宮城県視覚支援学校の協力の下、開催しました。参加された方は基本の形の確認やバスの乗降等の応用を学び、有意義な講座となりました。 【課題】今回は1日のみの講座だったため、内容が濃密すぎたとの声もあります。 【今後の取組】今後も継続しての開催と新規活動者の育成を行います。 【決算】14,074 円
--	---